トラック輸送情報(平成15年 6月分)

平成15年 8月29日

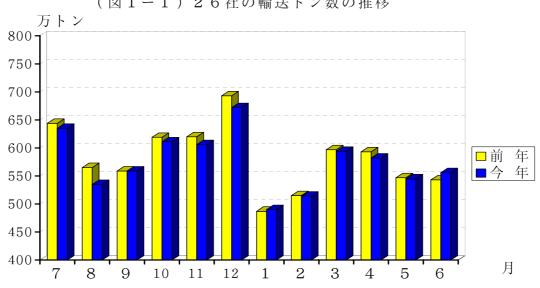
国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当:金子、荒木 内線28-315 03-5253-8342 ホームヘ゜ージ゛ http://www.mlit.go.jp/

. 特別積合せ貨物

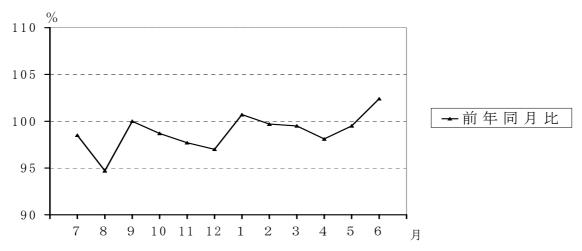
(1)本月の輸送状況

調査対象26社の本月の輸送量は5,560,955トンで、前月と比べ、総輸送量が約11万トン増加したため、前月比102.1 % (季節調整済み 98.3%)、前年同月と比べると、約13万トン増加したため、前年同月比102.4%の実績であった。 なお、平均稼動日数は、24.8日で、前月と比べ、1.3日の増加、前年同月と比べると、0.4日の増加であった。稼動 1日当たりの輸送量は、224,232トンで、前月と比べ、約0.8万トン減少したため、前月比 96.7%、前年同月と比べる と、約0.2万トン増加したため、前年同月比100.7%の実績であった。(図1-1、図1-2参照)



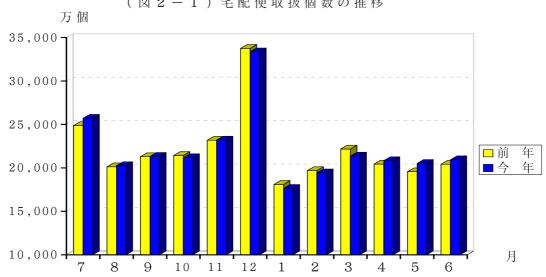
(図1-1)26社の輸送トン数の推移

(図1-2)26社の輸送トン数の前年同月比



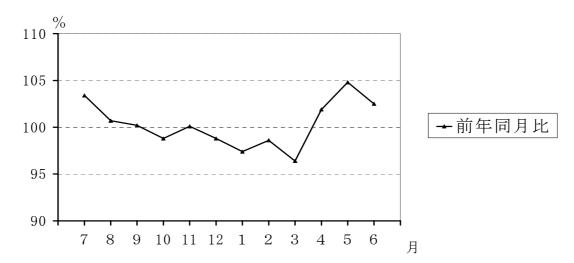
(2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、209,402千個で、前月と比べ、約430万個増加したため、前月比 102.1% (季節調整済み 96.4%)、前年同月と比べると、約516万個増加したため、前年同月比102.5%の実績であっ た。(図2-1、図2-2参照)



(図2-1) 宅配便取扱個数の推移

(図2-2)宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、大型連休の影響が見られた前月と比べ、ほぼ全ての品目において増加傾向にあった。中でも、食料工 業品が関東、北陸信越、近畿において、倉庫から出る貨物増、季節的需要増を主な理由として増加している。

前年同月と比べると、その他(宅配便)が全国において、デパート・スーパーからの貨物増、景気回復を主な理由と して増加しているが、減少傾向を示す品目も多く、中でも、繊維工業品が関東、北陸信越、近畿、中国において、工場 ・生産地からの貨物減、不況を主な理由として減少している。

(表1)品目別増減状況(回答事業者数 26社)

		増	減	事 業	(者		主 な 増 減 品 目 主 な 増 減 地 域	
l _		著	**	変、	Ĺ	著		* *
品	目	増	増	らず	減	減	(上段が増加・下段が減少) ■	増減要因
				Ť			野菜、青果物、魚介類 北陸信越、中国	4, 8
عدا	農水産品	1	4	8	4		農産物 東北、関東	4, 5, 8, 9
前	本見制 ロ		^	15	_		関東、北陸信越、近畿	4, 10
	金属製品		3	15	2		建築用金属製品中部	9
月月	機械		3	15	2		関東、北陸信越、近畿	10
	17%		Ŭ		_		産業機械、自動車部品 中部、大阪	4, 9
1:	化学工業品		3	17	2		東京	4, 10
							<u>塗料、樹脂製品</u> 関東、北陸信越	4, 7, 9
比	繊維工業品		3	15	5		中部、近畿	4, 10
							織物 関東 制造 地球伝統 どり	4
ーベ	食料工業品	1	6	10	4		製造食品、加工食品 関東、北陸信越、近畿 飲料	7, 8
							一般貨物 関東、北陸信越	4, 7, 9, 10
_	日 用 品		7	10	4		書籍·印刷物、文具、運動用全国	10
て	7 0 14	_	_	4.4	_		全国	2, 8, 10
	その他		4	11	4		宅配貨物 関東	2, 4, 5, 7
	農水産品		1	12	4		魚介類	4
前	展 小 庄 吅		'	12	4		農産物、野菜、青果物東北、北陸信越、九州	4, 9
/ -	金属製品		1	14	5		中部	4
年	_ = = = = = = = = = = = = = = = = = = =						建築用金属製品、家電製品関東、北陸信越、近畿	4, 9
一同	機械		1	13	6			
							産業機械、機械部品、自動関東、北陸信越、中部、近畿	
月	化学工業品		2	15	5		宝業製品 関東、中部、近畿	4, 7 4
							<u> </u>	4
1	繊維工業品		1	15	6	1	糸·絹製品 関東、北陸信越、近畿、中国	
比	△州 → # □			10	_		飲料 関東、四国	7
	食料工業品		3	13	5		北陸信越、近畿	2, 5, 7, 10
ベ	日 用 品		6	10	5		一般貨物、雑貨品 全国	4
	H (1) HH		U	١٥			書籍·印刷物、運動用品	4, 9, 10
て	その他	1	2	12	5		全国	2, 9
	, , ,				-		宅配貨物	2,4,5,7,10

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都府県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、 福岡)及び地方運輸局(6大都府県を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

*	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
増	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
減	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季 節 的 需 要 増(減)
要	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
因	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2.一般貨物

(1)本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者数 871社/調査対象事業者数 1,095社)の輸送量は、前年同月比100.6%、前月比102.3%であった。

(表2)地方運輸局別 前年同月比・前月比

				全 [国	北海道	東	北	関	東	北陸信越	中	部	近	畿	中 国] [2	ュ 国	九	州	沖	縄
前年	F同	月上	比	100.6	3%	98.3%	98	8.7%	101	.8%	109.7%	100	0.3%	97	.7%	100.09	, - 0	101.7%	101	1.3%	115	5.6%
前	月	Ŀ	ዸ	102.3	3%	106.2%	10	1.6%	103	.4%	104.3%	102	2.1%	98	.2%	101.69	ó	98.6%	100	0.3%	101	.8%

(2)地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北 海 道	本月の輸送は、公共工事・住宅建設の増加により「砂利・砂・石材」等の土木建築関係資材の輸送増が見られたため、対前月比106.2%であった。しかし、農作業終了による肥料の輸送減、製紙工場の減産等により、対前年同月比は98.3%であった。 今後の輸送見通しは、次月以降、緩やかな増加があると思われる。
東北	本月の輸送は、主要農作物の出荷時期を迎えた事から「野菜・果物」の増加が見られたが、逆に 「穀物」「その他の石油製品」等の減少も見られ、対前月比は101.6%、対前年同月比は98.7%で あった。 今後の輸送見通しは、次月及び以降共に横ばい傾向にある。
関東	本月の輸送は、夏休みシーズン・中元シーズンに向けて、「取り合せ品」「日用品」「食料工業品」の増加が目立った。このため、対前月比は103.4%、対前年同月比は101.8%と増加した。 今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にある。
北 陸 信 越	本月の輸送は、建設関係が活発化した事により、「砂利・砂・石材」「セメント」等の輸送増、また、「石炭」の輸入があり、これに関連し「その他の石炭製品」の輸送増も見られ、対前月比は104.3%、対前年同月比は109.7%といずれも上回った。 今後の輸送見通しは、次月及び以降共に横ばい傾向にある。
中部	本月の輸送は、新茶の季節が過ぎた事による「食料工業品(茶)」等の輸送減が見られたものの、連休のあった5月の翌月という事もあり、全体的に対前月比は102.1%と増加を示し、対前年同月比も100.3%とほぼ横ばいであった。 今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にある。
近 畿	本月の輸送は、季節的な需要により「食料工業品」に輸送量の増加が見られる。しかし、梅雨の 雨天が輸送量に影響していると考えられ、全体的には輸送減となり、対前月比は 98.2%、対前年 同月比は 97.7%と減少している。 今後の輸送見通しは、中元繁忙期に入るため、次月及び以降共に増加傾向にある。
中国	本月の輸送は、台風の影響により、海上輸送から陸上輸送に切り替える変化が見られ、また、 季節的需要増により「日用品」の輸送量も増加した。このため、対前月比は101.6%と若干増加し、 対前年同月比は100.0%と横ばいであった。 今後の輸送見通しは、次月は上昇傾向、以降は横ばい傾向にある。
四国	本月の輸送は、土木工事の減少により「砂利・砂・石材」、また季節的な需要減により「動植物性肥・飼料」の輸送減があった反面、「日用品」「食料工業品」の輸送増があった。また、「金属製品」の工場からの出荷増もあった事から、対前月比は98.6%と減少したものの、対前年同月比は101.7%と増加した。今後の輸送見通しは、次月は上昇傾向にあるが、以降はほぼ横ばい傾向にある。
九 州	本月の輸送は、天候不順に出荷量減少により「野菜・果物」、工事件数の減少により「砂利・砂・石材」の輸送量の減少が目立った。一方で、夏向けの製品の出荷が始まり、「食料工業品」「その他の製造工業品」を中心として輸送量の増加が見られた。このため、対前月比は100.3%とほぼ横ばいである。また、対前年同月比は101.3%と増加した。 今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。
沖 縄 	本月の輸送は、切り花等の本土出荷が減少した事により、「その他の農産品」の輸送減が見られた。一方、米等の「穀物」、ビール・ワイン等の「食料工業品」「日用品」の輸送が多く、対前月比101.8%、対前年同月比は115.6%と共に増加した。 今後の輸送見通しは、次月及び以降共に上昇傾向にある。

(3)運輸局別、品目別増減状況(対前月比) 回答のあった事業者数をとりまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

	_	_			運輸	jj .	局	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
								海			陸 信							国
品	E	1				_		道	北	東	越	部	畿	国	国	州	縄	計
1	凯					物	増	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	3
1.	未又					1 77J	減	0	3	0	0	0	1	1	0	0	0	5
2.	田文	菜	果	3	物	増	1	9	2	1	0	1	1	0	0	0	15	
۷.	ŦJ'	*	·	*	<	杪	減	1	1	2	0	0	1	0	1	8	0	14
3.	z	の他	の	農	産		増	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	4
ა.	~	0) 1E	U)	辰	生	品	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
4.	玄						増	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3
4.	田		産			品	減	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	4
_	マレ		盐				増	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
5.	小		産			品	減	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	4
^	_					+-+	増	5	0	0	1	0	0	0	1	1	0	8
6.	不					材	減	1	2	0	2	2	1	0	0	3	0	11
7	恭					<u></u>	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7.	祈					炭	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
٥	7			炭	増	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2		
8. 石			火	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
^	\triangle					٥÷	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9.	並		属			鉱	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10.	7.I\	エリ	7/\		7		増	15	1	0	3	1	0	5	0	3	0	28
10.	11ン	利 •	砂	•	石	材	減	1	2	0	1	1	0	2	2	8	0	17
4.4	_	₩ ==		, P	٥÷		増	4	2	0	0	0	0	0	0	2	0	8
11.	土	業用	非金	: 属	鉱	物	減	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	4
4.0	۵ #						増	3	1	0	1	0	1	2	0	0	0	8
12.	삸					鋼	減	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
12	∃⊢	ሪ ዙ		<u>^</u>			増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
13.	ŦF	鉄		金		属	減	0	1	0	1	1	1	0	0	1	0	5
1.4	<u>~</u>	P		集川			増	3	1	1	1	2	0	0	2	2	0	12
14.	址	属		製		品	減	0	1	0	2	0	1	1	1	0	0	6
4.5	1414						増	1	0	2	2	0	0	1	0	3	0	9
15.	饿					械	減	1	0	2	0	1	2	0	1	4	0	11
1.6	+-	J		٠,		L	増	1	1	0	3	1	0	0	0	1	0	7
16.	۷	メ		ン		۲	減	0	1	0	0	0	0	3	0	3	0	7
47	7	∂ /ι⊾	_	দ'ন	///		増	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	4
17.	て	の他	(J)	窯	業	品	減	0	0	0	0	1	0	2	0	2	0	5

	_		輸易	司	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		Œ	י/ נימ+	_,	海			陸							国
品	E				道	北	東	信 越	部	畿	围	玉	州	縄	計
				増	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
18.	揮	発	油	減	0	0	1	3	1	1	1	0	0	0	7
				増	2	0	0	2	0	1	1	0	1	0	7
19.	そ	の他の石油製	品	ù=t	2	2	1	1	Λ	2	2	1	1	0	16
	_	<i>h</i> 7		減 増	0	0	0	4 2	0	2 0	3 1	0	1 0	0	3
20.	コそ	- ク ス の他の石炭製	•		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
				増	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3
21.	化	学 薬	品	減	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
				増	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
22.	化	学 肥	料	減	0	1	0	0	0	0	3	0	1	0	5
0.0	7	の		増	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	4
23.	7	の他の化学工業		減	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	5
2.4	иπ	110 11		増	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
24.	紕	・パル	プ	減	2	0	0	1	0	0	0	1	1	1	6
0.5	5. 繊 維 工 業	<i>W</i> T W	:	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
25.		品	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
26	26. 食 料 工	料工業	品	増	3	5	3	0	0	3	1	3	7	1	26
20.		↑1 <u>+</u>		減	0	3	1	0	0	0	1	1	3	0	9
27.	П	用	品	増	0	2	4	0	1	0	3	2	4	2	18
۷,	Н	/I3		減	4	0	0	0	3	0	0	2	3	0	12
28	ュ	の他の製造工業	旦	増	0	0	1	0	0	0	1	0	5	0	7
20.		00 亿00 农足工来		減	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
29.	仝	属く	<u>ਰ</u> ੋ	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
29.	ΔĬŽ	周		減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
30	ァ	の 他 の く ず も	の	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50.	ر	٠٠ و) د٥ عا د٥		減	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
31	勈	植物性飼・肥	米汀	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
J 1 .	壬川	기보 기기 II 다시 · NC		減	4	1	2	0	0	0	4	2	1	0	14
32.	該	棄	物	増	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
JZ .	けも			減	2	0	0	1	1	0	0	1	3	0	8
33.	齢	送 用 容	器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
00.	נולד			減	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
34.	即	り 合 せ	品	増	0	1	2	1	1	0	2	0	2	1	10
J . .	47	, ₁		減	0	0	2	1	1	0	0	1	1	0	6
35.	ァ	Ø	他	増	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
55.	٠	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		減	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2